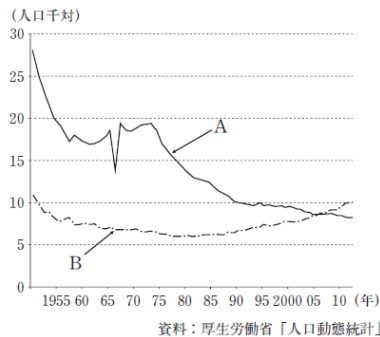


100-124

問題文



- 1. Aの値が低下傾向を示す一因に、晩婚化に伴う出産開始年齢の高齢化があげられる。
- 2. Aの値は、総人口と出生数のみから求めることができる。
- 3. Aの値が1971年から1974年にかけて高い値を示すのは、第1次ベビーブーム世代の女性が出産適齢期にさしかかったことによる。
- 4. Bの値が1983年頃から緩やかな上昇傾向を示しているのは、人口の高齢化の影響によるものである。
- 5. Bの値は人口の年齢構成の影響を受けるが、Aの値は影響を受けない。

解答

5

解説

A が 1965 年付近に急落している点と、A と B が近年が逆転している点に注目します。さらに縦軸が 人口 千 対 となっていることから、A が出生率、B が死亡率 と考えられます。（急落は、ひのえうま の影響と考えられます。）これをふまえて、各選択肢を以下、検討します。

選択肢 1 ～ 4 は、その通りの記述です。

選択肢 5 ですが
B の値、すなわち死亡率は、人口の年齢構成の影響を受けます。（例） 高齢化が進めば、上昇する）。A の値も同様に人口の年齢構成の影響を受けます。（高齢化が進めば、減少する）。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 5 です。
参考）（厚生労働省の資料 PDF ファイルへ。一度リンク先のファイルの表に目を通しておくイメージがわかりやすいと思います。）